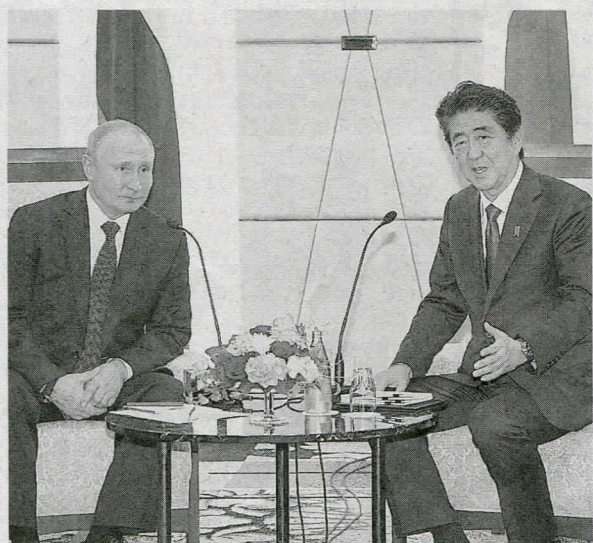


領土問題・共同経済活動 八方ふさがり

安倍晋三首相は29日、ロシアのプーチン大統領と大阪市で会談した。安倍政権は北方四島のうち、日ソ共同宣言で平和条約締結後に日本に引き渡すと明記された歯舞群島と色丹島の事実上2島に絞って交渉したが、ロシアの姿勢は軟化せず、今回の会談での合意を断念。両首脳は交渉継続を確認したが、事実上、暗礁に乗り上げた。

「2島返還」すれ違う両国

首相は会談後の共同記者発表で、「戦後70年以上残された困難な問題について立場の隔たりを克服するのは簡単ではない。しかし、乗り越えるべき課題の輪郭は明確になってきている」と述べた。プーチン氏は日ロ関係を新たな段階に引き上げ



ロシアのプーチン大統領（左）と
の首脳会談に臨む安倍晋三首相＝
29日、大阪市中心部、代表撮影

た。首相が「事実上2島」に絞る譲歩を示したこと、日ソ共同宣言を基礎に条約交渉を加速させることで合意。2001年に当時の森喜朗首相と署名したイルクーツク声明で、日ソ共同宣言を条約交渉の「出発点」と位置づけたことを念頭に置いたものだった。「離れていったのは日本の方だ」とも語った。

日本、さらなる譲歩困難

日ロ両政府は交渉継続で合意したもの、日本にとって展望は見えない。平和条約交渉の加速化で合意してから、7カ月あまり。「事実上2島」に絞る交渉とあわせ、国会や記者会見などでは「北方四島」「日本固有の領土」といった表現も使わず、ロシアを刺激しないように譲歩と配慮を続けてきた。領土交渉で「事実上2島」からさらに譲歩は困難。かといって今さら「4島」の主張に戻るわけにもいかない。

日ロ首脳会談を翌日に控えた28日、外務省の森健良外務審議官は、ロシアのモルグロフ外務次官と大阪市内で秘密裏に向き合った。2人は交渉の実務担当者で、両首脳の特使代表。20日にも首脳会談前の最終交渉としてモスクワで協議したが、条約交渉はおろか、北方四島の共同経済活動でも進展せず、29日の首脳会談で共同文書を出すかどうかの議論も行われなかった。成果を焦る日本側が当初、予定していなかった最後の交渉を行ったのだ。

結局、首脳会談では、北方領土での共同経済活動について、今秋、観光とごみ処理の試験事業を行うことで一致。しかし、双方の法的な立場を書き合えない「特別な制度」をめぐる折り合いは、共同で事業を行う際、ロシアの国内法の適用を認めれば、ロシアの主権を日本が認めることになる。外務省幹部は「結局は主権の問題になってしまふ」と漏らす。会談後、両国政府が出したプレス発表は「活動の実施に向けた進展を歓迎した」との文言にとどまった。（竹下由佳）

う。ロシアは03年のイラク戦争や04年の北大西洋条約機構（NATO）の東方拡大を経て、14年には隣国ウクライナのクリミア半島を一方的に併合し、欧米との対立を決定的にした。

国際的に孤立する中、プーチン政権は愛国心で国民の支持を固める路線を強めた。その基礎となったのは、安倍政権にとって、北方四島のうち、歯舞、色丹の事実上2島に絞って交渉に臨むのは大きな賭けだった。

た。日本には政治的基盤の強い首相とプーチン氏であれば、政治決断できるとの期待もあった。しかし、ロシアは日ソ共同宣言を両国が唯一批准した文書とする基本は維持してはいても、「2島なら」という日本の期待に対応できる状態ではなくなっていた。首相が日ソ共同宣言に戻るといふ決断が明らかにしたのは、皮肉なことに交渉が停滞した十数年の間に広がっていた両国のすれ違いの大きさだった。（喜田尚）

が出ない対策を講じず、日韓領府の状況を知る元高官によ
請求権協定に基づく協議や仲
ると、関係改善に努力する姿

中国の習近平国家主席が27
日夜、大阪市で開かれた安倍

と
称